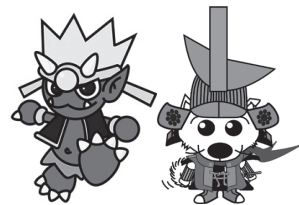


登別・白石姉妹都市提携40周年



姉妹都市白石市の紹介



登別市と宮城県白石市は、昭和58年10月26日に姉妹都市の盟約調印を行い、本年は40周年という節目の年を迎えることができました。40周年を記念して、8月に記念式典などを開催し、10月には市民の皆さんから参加者を募集して白石市を訪問する記念ツアーを行います。

今月号では、白石市の登別市とのゆかりや白石市の姿を紹介します。

問い合わせ 総務グループ (☎01130)

白石市の歴史



白石市は、蔵王連峰と阿武隈山脈に囲まれた城下町です。その歴史は古く、白石城の名が歴史上に現れるのは、戦国時代です。伊達政宗随一の名参謀、片倉小十郎景綱が政宗からこの地を拝領したのは1602年（慶長7年）。約1万5千石の城主となった小十郎景綱は、現在の白石市の基礎を築き、明治維新までの約260年間、片倉家は、11代にわたってこの地を治め、最終的な石高は1万8千石になりました。

明治維新を迎える頃には武士の生活は厳しくなり、さらに、戊辰戦争で敗北した片倉家は、混乱と危機に陥りました。そこで第十一代城主である片倉小十郎邦憲は、家臣の経済的な破綻を救い、武家の面目を保ちながら家中の建て直しを図るため、祖先の霊を祭る常英山傑山寺に家臣を集め、北海道への移住を決めました。



白石城



白石城は白石市の中心部にある益岡公園に位置し、中世末期は、地元の土豪白石氏の居城でした。1602年（慶長7年）以降は仙台城の支城として伊達家の重臣片倉氏が代々居城し、1615年（元和元年）の一国一城令後も例外的に『城』としての存続が認められました。

明治7年に民間へ払い下げられた後に解体され、茶室、古井戸、大手門礎石、石垣の一部を残すのみとなりました。

白石城の復元は、市民から寄せられた多額の寄付により、平成5年には石垣、平成7年に三階櫓（天守閣）と大手門がよみがえりました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、白石市の震度は6弱を記録し、白石城は三階櫓や大手門のしっくい剥がれ落ちるなどの大きな被害を受けました。震災復旧工事が行われ、平成24年9月に元の姿を取り戻しましたが、令和3、4年に相次いで発生した福島県沖を震源とする地震で白石城は再び大きな被害を受けました。その後、令和の大修復と名付けられた大修復工事を経て、現在はこれまで同様の美しい姿を取り戻しています。

なお、登別市郷土資料館は、昭和56年に、白石市の白石城をモデルとして建てられたものです。

現在の白石市

仙台市から南へ約50^{キロメートル}、宮城県南部、福島県との県境に位置し、人口約3万2千人、面積286.47平方^{キロメートル}の城下町です。

昭和29年4月に白石町と周辺6村が合併して白石市となりました。

市内の交通網は、東北新幹線の白石蔵王駅、東北自動車道の白石インターチェンジがあり、新たに（仮称）白石中央スマートインターチェンジの整備が進められ、首都圏に直結しています。また、仙台空港へは、車で45分という交通の要衝です。

温麺は親孝行の味



胃病を患う父のために、息子が旅の僧から麺の製法を学び、小麦粉と塩水だけで麺を完成させました。その麺は消化が良く、滋養にも富んでいたことから、父親は快方に向かいました。そのため、息子の心の温かさを取って『温麺』と呼ぶようになりました。

その後、片倉氏の奨励や保護政策により、その製法が広まり、きれいな水と乾いた清澄な空気が製麺に適していたことから、土地の名産として定着しました。

以来、400年あまりの伝統を下地に、味、品質を磨き上げ、ゆでやすく、食べやすいと定評があり、ふるさと納税の人気返礼品の一つとなっています。

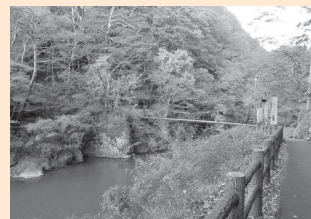


渓谷や温泉のある豊かな自然



◀小原温泉…白石川上流のいで湯、800年もの歴史のある緑豊かな渓谷に面した風光明媚な湯の里

▶碧玉溪…夏は深い緑色を宿した玉のような美しさ、秋は鮮やかな紅葉など、一年を通じてその景色を楽しませてくれる



◀鎌先温泉…南蔵王不忘山の谷あい湧く、静かな温泉郷で、奥羽の薬湯として親しまれている

白石市の伝統『弥治郎こけし』



弥治郎は、不忘山の裾の谷あい抱かれた小さな木地師の集落です。そこで生まれるこけしは素朴で、しみじみとしたかわいらしさにじみ出ています。

弥治郎こけしの特徴は、ベレー帽のように彩られたろくろ模様の大きな頭と、ろくろ模様が多用された胴体にあります。始めは子ども向けの玩具として作られていたものですが、現在は広い年齢の方々の目を楽しませてくれます。



登別市と白石市のきずな 更なる発展へ

登別市と白石市は、昭和58年10月26日姉妹都市の盟約調印を行いました。

両市のゆかりは、明治2年太政官から幌別郡を拝領された旧仙台藩白石城主片倉家一門が、開拓のくわを入れ、登別市の礎を築いたことに始まります。これに基づき両市が友好と理解を深めお互いに発展することを祈念して姉妹都市を提携し、40年目という節目の年を迎えることができました。

この間、少年のスポーツ交流やふるさと豆記者訪問、こけしの絵付け教室、市民団体の交流や物産展の開催など相互に活発な交流が行われてきました。

平成23年4月29日には、白石市の姉妹都市である神奈川県海老名市と登別市、白石市の3市が、これまで以上に経済や市民の交流を深め、共に家族やきょうだい、友達のような関係を築き上げることを宣言した『トライアングル交流宣言』に調印しました。また、平成28年11月26日には、白石市に由来を持つ札幌市白石区と登別市の1市1区が、これまで以上に友好と理解を深め、永遠の友好と変わらない交流を行うことを宣言した『登別市・札幌市白石区交流宣言』に調印しました。

8月27日(日)に開催する姉妹都市提携40周年記念事業には、白石市をはじめ、海老名市、白石区の皆さんが参加する予定であり、白石市を中心とした交流の輪は大きな広がりを見せています。

